

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第690号 平成26年2月18日

未来技術遺産

国立科学博物館では、平成20年（2008年）から「未来技術遺産（重要科学技術史資料）」の登録制度を実施しています。

この登録制度の目的は、「科学技術の発達史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つ科学技術」や「国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えた科学技術史資料」の保存と活用を図ろうとするもので、これ迄に135件の登録が行われています。

この中には、

- 日本最初期の量産型カラーテレビ



- 日本初の携帯電話



- 世界で初めて市販されたデジタルカメラ



- 日本初の合成接着剤



- 世界初の除虫菊を含む蚊取線香



等、産業界だけでなく、私達の生活スタイルを一変させた製品が沢山含まれています。

また、登録された135件を見ると日本で初めて製品化されたものが多いのですが、中には世界初とか、当時としては世界一といったレベルの製品も少なくありません。

かつて日本は、欧米の基礎研究にただ乗りしているとか、欧米技術の物まねといった批判を受けた事もありました。しかし、登録されている「未来技術遺産」を見

ると、それらは決して、「基礎研究のただ乗り」でもなければ単なる「欧米技術の物まね」でない事は明らかであり、むしろモノづくりに対する日本人の優れた独創性を強く感じます。

また、ノーベル賞受賞者ではアメリカやイギリス、ドイツ、フランスには遠く及ばないものの、それでも世界で8位という数を誇っている様に、基礎研究の分野でも、世界に貢献している事は確かです。困みに、経済的には大きな発展をしている中国や韓国ですが、科学技術の分野では1人の受賞者も出していません。

こうした中、モノづくり日本は今や中国や韓国の後塵を拝し、呻吟している様に見えます。実際、日本の製品は技術的には優れているものの、携帯電話の様に世界の変化に取り残されて「ガラパゴス化」し、国際標準からもかけ離れて競争力を失っているという指摘もあります。しかし、日本の科学技術力の底力は、まだまだ大きいと思います。

日本経済新聞社は毎年、独創的な技術とアイデアで新しい市場を開拓、日本再生を期待させる製品・サービスに対して「日経優秀製品・サービス賞」を贈呈して来ています。昨年は、

- ・豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」
- ・新型固体燃料ロケット「イプシロン」
- ・小型車「フィット ハイブリット」
- ・セルフ式ドリップコーヒー「セブンカフェ」
- ・自家培養軟骨「ジャック」

の5点が日本経済新聞賞を受賞しています。この他にも、素晴らしい製品やサービスは目白押しで、その豊かな独創性と技術力は依然として錆び付いてはいないと思います。しいて日本人に足りないものを上げるとすれば、「日本は再び飛翔する」という自信かも知れません。（塾頭：吉田 洋一）